

琉球大学学術リポジトリ

地域創生副専攻の取組み：初の修了生9名誕生

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2021-05-26 キーワード (Ja): 副専攻, 地域志向, 地域創生 キーワード (En): 作成者: 小島, 肇 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48513

地域創生副専攻の取組み —初の修了生9名誕生—

小島肇

琉球大学地域連携推進機構

要 旨

平成29年度に設置された「地域創生副専攻」について、背景や教育内容等の概要を紹介するとともに、登録学生の学びの状況や評価をふまえ、今後の展望を試みる。

キーワード

副専攻、地域志向、地域創生

1. 「地域創生副専攻」設置の背景

今日、日本社会で進行する人口減少や高齢化、都市化、都市部への人口一極集中といった社会現象により、「地方」に位置する地域、なかでも人口減少傾向が著しく進行する地域においては、地域が活力を失い、地域社会の持続そのものが焦眉の課題となっている。沖縄県においても、特に人口が減少する傾向にある地域においては、地域がこれまでと同様の機能を果たし続けることに関して高い危機感が生まれている。このような地域では、今、地域の活力の創出や様々な地域課題の解決、地域社会の持続といったことが切実な問題となっており、これらの問題の解決に向けて果敢に取り組む地域志向型の人材が強く求められている。

本学では、文部科学省の補助事業である「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）として「ちゅら島の未来を創る知の津梁」を平成25年から30年3月まで、同「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）として「新たな地域社会を創造する『未来叶い（ミライカナイ）プロジェクト』」を平成27年から令和2年3月まで実施してきた。これらのプロジェクトを契機に、地域志向科目の拡充、地域志向科目の全学必修化とあわせ、「地域創生副専攻」を立ち上げることにより、地域の持続・発展に向け、地域の未来を着実に切り開くことのできる高度人材の育成・輩出を目指すこととしている。

2. 地域創生副専攻の理念

地域創生副専攻は、今日、様々な地域が抱える現況や諸課題に関する理解を深め、その課題解決に向けて具体的な方策を案出・実践することを通じて、地域の維持・発展に対して主体的かつ能動的に貢献することのできる人材を育成する地域志向型教育プログラムである。

本副専攻では、沖縄地域を事例として学ぶ科目が多いが、各科目においては「共同性」や「実践性」を重視し、履修登録学生間の意見交換を基礎とする共同の学びを基軸に、地域でのフィールドワーク活動やプロジェクト型の実践的学習を展開することを方針としている。沖縄地域について学ぶが、沖縄以外の地域についても応用可能な内容となっている。

3. 本副専攻の教育内容・方法と修了要件

本副専攻で提供する授業科目については、主として座学形式で地域に関する基礎的理解を高める「地域創生理解」科目と、実際に地域でのフィールドワーク活動やプロジェクト型の学習に重点を置いて実施する「地域創生活動・実践」科目の2カテゴリーから構成される。なお、本副専攻で提供する授業科目の大半は、グループワーク等によるアクティブ・ラーニングを採用することとしている。

本副専攻の修了要件は「地域創生理解」科目から10単位以上、「地域創生活動・実践」科目から6単位以上、全体で20単位以上を修得することと、選択必修科目として「現代沖縄地域論」または「現代沖縄の地域振興」を履修することとなっている。

4. 本副専攻の到達目標（人材育成像）

本副専攻においては、全ての副専攻履修登録学生が、以下の5つの能力を身に付けることを目指している。

- (1) 地域の実情や特性、価値について深く理解することができる。
- (2) 地域における課題を発見することができる。
- (3) 地域課題の解決策を考案し実践することができる。
- (4) 多様な人々と協調し共に行動することができる。
- (5) 地域社会の維持・発展に向けて主体的かつ能動的に貢献することができる。

5. 副専攻を修了した学生の将来像

副専攻を修了した学生には、地域社会の維持・発展に貢献する実践的人材として、地域社会の様々な課題の解決に向けて、各自の広い教養と深い専門性をもって、主体的かつ能動的にチャレンジすることが期待される。本副専攻設置時に想定する具体的な将来像は以下の通りである。

- ・他者との共働を基盤に創造性に富む政策を考案し、着実に実行するアクティブな公務員
- ・社会における様々な課題の実態を理解し、その解決策を案出し行動する社会的実践者
- ・地域の資源を生かし、自由な思考から発想する地域志向型アントレプレナー
- ・地域社会の形成に関する自治的活動に主体的かつ能動的に参加し、協調性をもって行動する市民
- ・多様な意見を集約し、地域社会を牽引する地域志向型リーダー
- ・地域社会のニーズを研究課題として展開し、その成果を地域に還元する地域志向型研究者

6. 学生の登録・学修・修了の状況

平成29年度に副専攻が設置されてから、令和元年までの3年間に114名の学生が登録している。法文学部、観光産業科学部の学生の割合が高い傾向にあるが、教育学部、理学部、農学部、工学部からも登録学生がいる。文系・理系の学生が学年の壁をこえて共に学ぶ機会として、特に地域連携推進機構が共通教育で提供している科目では、多様な学部の学生が受講している科目もあり、現状では登録の少ない学部においても登録者の増加につながることを期待される。

今年度の前学期に実施した対象科目を受講している学生の評価としては、回答した学生の93%が、対象科目を受講することで地域について学ぶことについて関心が深まったと回答しているほか、同94%が地域に関わることの意欲が高まったと回答しており、授業の受講が、地域を学ぶことへの動機づけとなっていることが伺われる。一過性に終わらせることなく、学部等における専門科目や、地域創生副専攻の対象科目において、より深く体系的な学修につながることを期待される。

令和2年3月に本副専攻として初となる9名の修了生が誕生した。副専攻に登録し同年に卒業した学生は17名であったので修了できた学生の割合は53%に相当する。修了できなかった学生の中には、取得単位数が数単位の学生も数名見られたが、2単位足りない学生や、20単位以上取得しているものの条件を満たしていない学生もあり、履修指導の重要性を感じさせられた。修了した9名の学生のうち、6名は沖縄県内に就職、1名は本学の大学院に進学している。卒業時に修了学生から聞き取った感想の一部は以下の通りである。

Rさん（県内離島出身→法文・総社・経済 卒業→県内IT関連企業へ就職）

離島出身で地域経済や地域振興に関心があり、より詳しく学びたいと副専攻に登録。久米島での実習などで、座学で学んだ知識を実際に体験し確認できた。副専攻での学びを通して、地域には知識と人の思い・繋がりの方が重要だと強く感じた。実習等で同じ仲間との交流ができたことも大きな収穫になっている。地域の力が注目されており、就職活動においても、卒業後も副専攻で学んだ知識と経験は活かせると感じている。

Hさん（県外出身→法文・総社・法学 卒業→県内航空関連企業へ就職）

専門以外の分野について何か学びたい、また沖縄について理解を深めたいとの思いから副専攻に登録。副専攻でなければ履修しないような科目も積極的に履修し、知識を広めることができた。企業による寄附講義の受講が進路選択・就職先の決定に影響を与えたとともに、就職活動では大いに役立った。実習でなければいけないような場所、気づかないような視点が得られ、地域の見方が変わった。沖縄での学びを通して、改めて出身地についても見つめ直すことができた。

Mくん（県内出身→工・環境建設・土木 卒業→大学院進学）

専門分野にも役立つような内容だと考え副専攻に登録。実習を通して調査方法の設定や、事前準備の大切さ等、フィールドワークの重要性を学ぶことができた。他学部の学生との交流など、学びの幅、視野を広げることもできた。どのような専門分野でも活かせる点が必ずあると思うので、チャレンジする甲斐がある副専攻だと思う。

上記以外の修了学生の就職先としては、県内自治体、県内金融関連企業、県内サービス関連企業、県内観光関連企業等となっている。

7. 終わりに（今後の展望）

本副専攻は平成29年度に設置され丸3年が経過した。9名の修了生が誕生し、一部の聞き取

りからではあるが、本副専攻の到達目標として掲げている5つの能力について、授業や実習を通じて身に付けることが出来たことを垣間見ることが出来た。修了学生の将来像として掲げている、地域リーダーとして活躍することが期待される。

見えてきた課題としては、副専攻に登録したものの数単位した習得しない学生や、数単位の不足や修了条件を満たさないために修了できなかった学生などへの履修指導の重要性が見えてきた。また、地域は多様な構成員から成り立っており、地域を学ぶ場においても多様な構成員と共に学ぶ機会となっていることが重要なポイントになるが、現状では登録学生の所属学部にも偏りも見られ、提供科目と合わせて改善を図っていく必要がある。

これらの成果や課題を副専攻の教員組織においても共有し、学生にとって魅力的な副専攻として運営して参りたいと考えている。

以上